

## 令和6年度 校内研修計画

### 1 学校教育目標

豊かな心を持ち たくましく生き抜く 岩国小児童の育成

㊦意思の強い子 ㊧和を大切にする子 ㊨工夫して取り組む子 ㊩忍耐強くしなやかな子

### 2 研究主題

自ら考え、学び、共に高め合う、コミュニケーション力をもつ子の育成  
～協働的な学びの充実を図る授業づくりを通して～

#### (1) 主題設定の理由

令和4・5年度「岩国市小中一貫教育に係る確かな学力推進研究事業」における学力推進研究校の指定を受け、研修主題を「自ら考え、学び、共に高め合う、コミュニケーション力をもつ子の育成」と設定し岩国中学校区で研修を進めてきた。本校では、副題を「言語活動の充実を図る授業づくりを通して」とし、3つの視点（主体的な学習につながる課題設定、考えを深め合う言語活動、学んだことを次時に生かす振り返り）から授業づくりを進めてきた。その結果、児童アンケートでは、コミュニケーション力に関する項目でおおむね肯定的な回答が得られた。しかし、「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表しているか」という項目においては、肯定的な回答が6割にとどまっていた。また、教師の実感として「聞くこと」も課題に挙げられる。話に集中して必要なことを聞き取ったり、情報を正しく理解したりすることが難しい児童がおり、そのことにより、学習や人間関係が円滑に進まない様子が見られることもあり、コミュニケーション力をさらに高めていく必要があると感じられる。

そこで、本年度も昨年度と同じ研修主題を設定し、「協働的な学び」をキーワードに様々な方向からコミュニケーション力の向上へアプローチするのはどうかと考えた。令和3年中央教育審議会答申の「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、子供達の多様化などの課題から、個別最適な学びの重要性が述べられている。一方で、孤立した学びにならないよう、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」も一体的に充実させていく必要があるとされている。この「協働的な学び」について、様々な方向から働きかけ検証していくことで、研修主題にあるような児童の育成を目指す。

#### (2) 研究の仮説

協働的な学びを充実させるために、以下の2つの視点から授業づくりを行うことで主題のような児童を育成することができるのではないか。

#### (3) 研究の視点

①他者意識をもった表現活動

②考えの広がり・深まりにつながる手立て（場の設定、環境整備、課題設定等）

#### (4) 研究の内容

##### ①児童の学力向上のための日常的な取組

- ・ 研究の視点に沿った授業づくり
- ・ 学習 10 か条の徹底
- ・ 家庭学習の手引きの配布と家庭学習強化週間の実施
- ・ やまぐち学習支援プログラムやタブレット（ドリルパーク）の活用
- ・ 読書活動の充実

##### ②授業研究

- ・ 1人1授業の実施による教師相互評価を通じた授業改善
- ・ 各学年ブロック1回の公開授業・研究協議

##### ③地域・家庭と一体となった取組

- ・ いこいの日（毎月15日のノーメディアデーに、親子読書を推進）
- ・ 学校運営協議会委員の校内研修への参加
- ・ 生活科・総合的な学習の時間での地域学習の充実

#### (5) 検証の方法

##### ①児童アンケート

##### ②校内研修における中間評価

#### (6) 研究組織

